

復活節第6主日

ヨハネ 14・15-21

2014.5.25 9:30 ミサ

長崎 壮

(クラレチアン宣教会助祭)

今日のミサで読まれた福音は、受難を前にしてイエス様が弟子たちに向けて行われた「告別説教」と呼ばれる箇所の一部です。13～17章にわたる長い告別説教ですが、その中心となるメッセージのひとつが、愛に関するテーマであり、今日読まれた以外の箇所でも何度も何度も、「イエスを愛する者は、イエスの掟を守る」という言葉が繰り返し語られ、さらに「イエスを愛する者は、イエスを遣わした天の御父から愛される」と約束していただきます。私たちを「最愛の天の御父と一層堅く結びつけてあげたい」という、イエス様の思いが伝わってきます。

イエス様が言う「私の掟」とは何でしょうか。これは、最後の晩餐の席で、弟子たちの足を洗った後におっしゃった、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(13:34)という愛の掟です。同じ言葉が今日読まれた箇所の後にも、もう一度繰り返され(5:12)ているのを見ますと、よほどイエス様が大切にしていた教えであることがわかります。

さて、今日の福音の中では、「私を愛する」、「私の掟を守る」という言葉以外にも繰り返し用いられている言葉があります。皆さんは、お気づきになりましたか？

まず「(聖霊が)あなたがたと一緒にいるようにしてくださる」、「(聖霊が)あなたがたと共におり」、「(聖霊が)あなたがたの内にいる」。あるいは「私たちがイエスの内におり」、「イエス御自身が私たちの内にいる」というように、「共にいる」「内にいる」という言葉がくどいほど強調されます。

天の御父とイエス様の霊であり、「愛そのもの」である聖霊が共にいてくださるとは、どういう意味なのでしょう。

実は、神様が「共にいる」という言葉は、聖書の中では特別な人に何か使命を授ける時に使われる表現なのです。イスラエルの民をエジプトから導き出す

という使命をモーセに授ける時に神様はモーセに向かって「私は共にいる」と神様は力づけました。また、マリア様が私たちの救い主であるイエス様を産むという大きな使命を告げられる時の天使ガブリエルの挨拶も、「恵まれた方、マリア、主はあなたと共におられます」というものでした。マリア様も、この言葉が聖書の中でどのような意味であるかをよく知っていたからこそ、とまどってしまったのです。「主は共にいる」という短い言葉の中にこのような大きな意味があるとは皆さんにとっても意外だったのではないのでしょうか。

私も助祭になって、こうして毎回福音を読ませていただいているのですが、ミサの中で一番気に入っている台詞というのが、「主は皆さんと共に」という言葉です。皆さんに向かって、「神様がいつもあなたと一緒にいるのですから、家庭や会社や学校でキリスト信者として喜びをもって一週間を過ごしてください」との願いを込めて呼びかけます。そして、皆さんの応えとして、主が私と共にいて下さることを宣言していただく時、叙階式で約束した「御言葉を大胆に伝えていく」という使命のことを思い出すことができ、何か力を得るような気がします。神様が共にいてくださるからこそ、本来大勢の人の前で話をするのが苦手な私もこうして神様についてお話することができます。

イエス様から命じられた「私があなた方を愛したように…」という掟は、確かにハードルが高いように感じられますが、イエス様は私達に実現不可能な命令をすることはありません。聖霊がともに、イエス様が共にいるならばできるはずです。

さて、今から 40 年ほど前、スペインのクラレチアン会の修道院でこのようなことがあったそうです。

春先のある日、平日の朝ミサが行われたのですが、一人の神学生がミサに出席していないことを先輩の神学生たちが気づきました。ミサはそのまま行われ、終わった後で先輩たちが神学生の部屋を訪ねて、ベッドで横たわっているその神学生に向かって「気分が悪くて起きられなかったの？」と聞いたところ、その神学生は、「気分が良過ぎて起きられない」と答えてそのまま寝続けたそうです。

この話を聞いた時に私が思ったことは、先輩の神学生たちの反応は二通りあったのではないかということです。「ミサをサボりやがって」、「祈りをサボりやがって」と思った神学生たちは、神様と共にいることの喜びに気づいていな

い人ではないかと思えます。一方、普段から神様が共にいてくれることに感謝の心で一杯の人、毎日のミサでイエス様と親しく関われることにこの上なく満足している人であれば、ミサに出られなかった神学生に対して「かわいそうだな」と思ったのではないかと思えます。

私たちもイエス様が共にいてくださることへの感謝や喜びの気持ちをもっと、もっと深めることができたなら、自然と優しい気持ちになれるのではないのでしょうか。

今日はマリア様の月の最後の日曜日です。

神様が共にいてくださることに感謝して、そしてその導きに信頼して生涯を歩んだマリア様に向かって、私たちが神様と共にいることの喜びを深く悟り、まずは周りの人をイエス様と同じ心で愛することができるように取次ぎを願いましょう。